

## 小栗崇資先生への献辞

小栗崇資先生は、2020年3月に古希を迎えられ、2020年3月末をもって駒澤大学を定年退職されます。古希をお祝い申し上げますとともに、20年にわたり駒澤大学および経済学部の発展に貢献された研究・教育・学部の活動に感謝申し上げます。

小栗先生は、中央大学法学部卒業後、新日本出版社勤務を経て、明治大学大学院商学研究科修士課程を修了し、1988年3月に明治大学大学院商学研究科博士課程を満期退学されました。鹿児島経済大学専任講師、日本福祉大学経済学部助教授、教授を経て、2000年4月に駒澤大学経済学部教授として着任されました。駒澤大学では、駒澤大学経理研究所所長（2001年4月～2008年3月、2010年4月～2018年3月）、経済学部経済学科（夜間主）主任（2003年4月～2005年3月）、大学院商学研究科委員長（2011年4月～2013年3月）、経済学部長（2013年4月～2015年3月）を歴任され、駒澤大学・経済学部・大学院商学研究科の研究と教育の発展に寄与されてきました。

小栗先生のご研究においては、ご著書『アメリカ連結会計生成史論』（日本経済評論社、2002年）を上梓され、2003年3月に明治大学より博士（商学）を授与されております。同書は日本会計史学会賞受賞著作でもあります。また、近年上梓されたご著書『株式会社会計の基本構造』（中央経済社、2014年）は、現代株式会社会計の構造と理論の全体系について、発展過程と理論構造の分析を行うとともに、社会科学として会計研究の再構築を試みた会計学方法論の著作でもあります。同書は、会計理論学会賞の受賞著作であり、小栗先生の研究は学界において高く評価されています。また、日本企業の増加し続ける内部留保（利益剰余金）に関する調査・研究を継続的に進められており、学界のみならず実業界においても小栗先生の研究は注目されております。

小栗先生は教育研究活動の一環として、学協会の運営など社会的活動も活発に行われております。学協会では、会計理論学会会長（2007年10月～2010年10月）、日本会計史学会会長（2016年10月～2019年10月）など学協会の常任理事、理事を歴任され、学問・研究の発展に寄与されています。また、一般社団法人生協総合研究所監事やNPO法人の副代表など社会的活動にも従事されており、社会発展に貢献されています。

小栗先生は健康そのものと拝見しております。ご健康にご留意いただき、今後ますますご研究を進展され、多くの研究成果を世に問われるとともに、社会的活動においてますますご活躍されることを祈念いたします。今後とも私たち後進を導いていただきますよう祈念いたします。

経済学部長 岩波文孝